

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail [fuchu\\_nakagawara\\_church@hotmail.com](mailto:fuchu_nakagawara_church@hotmail.com)

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

# 牧会書簡／日々の祈り

## (付：日々の学び)

### 2020年5月10日（第七報）

今回の牧会書簡等は、前第六報と合わせて郵送することになりました。お待ちいただいていた方には失礼をいたしました。どうぞ、聖書の学びや祈りの手引きとしてお用いください。前回お知らせしたとおり、礼拝説教は、5月31日のペンテコステまで連続して「復活と聖霊降臨」を主題にしています。すでに、その日までのすべての説教原稿を合わせてお届けしています。実際には、週ごとに区切りをつけ、一部言葉を補いつつ語っています（合わせて送った先週の説教のように、「補い」がまるまるひとつの説教となることもあり、未確定な点では不自由があるかもしれませんが、ご容赦ください）。皆様におかれましては、家庭礼拝のあり方にあわせて、自由にお持ちいただければ幸いです。毎週もうしあげていることですが、今日も、復活日と聖霊降臨日との間にあるひと時として、希望のうちに歩みたいと願います。みなさまも心を高く、聖霊のみちびきを求めて祈り歌いつつ、主にある喜びと感謝を味わい過ごされますように。

# 目次

## 目次

牧会書簡（7）敬愛する皆様へ～とくべつな「ゴールデンウイーク」を経て土台を確認する	1
<u>小会だより（簡略版）第5回小会における協議より</u>	<u>4</u>
日々の祈り「感謝の祈り～飢え渴きを満たしたもう主に」	5
日々の学び他：5月3日説教原稿（追加）／講義第2講資料抜粋	（添付）

## 牧会書簡（7）

敬愛する皆さまへ

～近況報告：とくべつな「ゴールデンウィーク」をあけて、いま確認したい古くて新しい道について

主の御名を讃美いたします。

今回、予告もなく、急きよ「第六報」を、本「第七報」と合わせてお届けすることになりました。郵便局の通常配達お休みの記事を見て、用意していたものを保留していました。その前に小会からお送りした献金に関するお手紙だけ先に届けられて、懸念を持たれたかたもおられたかもしれないと思うと恐縮です。お待ちいただいていた方にはご連絡もせず、失礼いたしました。

とくべつな「ゴールデンウィーク」、皆様はどう過ごされたでしょうか。私は、今年の「憲法記念日」にとくべつに覚えなければならない社会的な課題（憲法改正議論）など、この期間に私たちが今取り組まなければならない大事な諸問題があることを自覚しながら、教会の動画配信の実務と、大学や神学校の授業の準備に多くの時間を割かねばならず、同時に、家にいる子どもたちを退屈させない遊びや学びの時間を共有しようとしてきました。おもえば、新型コロナウイルスの常ならぬ事態は、牧師・教師・父・夫その他あらゆる顔をもつ私のすべてのあり方を一度に問うような出来事なのだと感じかされます。ここでは、どのような立場であったとしても、ひとりの「人間」として、あるいは「生けるもの」としてどうあるかが問題なのだと思います。

そこで私は、家に閉じ込められたこの休みの期間に、神の被造物としてどう生きるか、その基本的な立場を確認する作業をするつもりで、私的にも公的にも、働くときも休む時も、誰とどこにいても常に変わらない、人間形成や生き方の基礎だと思われるものを、しっかり確認する作業をしようと考えました。皆様は、もしそのような土台が何かと問われたとき、どのようにお答えになるでしょうか。いつかこの点について皆様と対話してみたいと思いますので、この機会にご自身に問うていただければと思います。その際、土台とは、すべてを取り払ったあとに残る「裸」のすがた、と言い換えてもよいかもしれません。つまり、いろいろな飾りがはぎとられ、剥き出しとなったときに、何が残るか、ということです。

## 牧会書簡（7）

私たちは、いまご一緒に「理不尽」や「不条理」に向き合っています。私やだれかの何か悪い行為の報いとして受けている等と単純には説明ができない「突然の苦難」に直面しています。まるで、グレゴール・ザムザ（フランツ・カフカ『変身』の中で、ある日突然「虫」になっていた主人公）に突然訪れた「ある朝」のように、理由なき不自由・隔離・疎外・欠乏・孤独といった不条理が、私たちから突然日常を奪うことがある、そう思い知らされています。もしこのまま事態が悪化する一方で、「弱い」と見える人から順に隔離され、疎外され、失われていく世の中で、社会の病巣や具体的な私たちの体の弱さが剥き出しにされるとすれば、私の生きる希望は、最後まで残るでしょうか。たとえば、だれか特定の人との関係を、私を構成するすべての基礎と考える場合には、その人との別離や、その関係にしばしば入る亀裂のようなものが、私を私でなくさせてしまう。そうして私は自分を見失い、生きる目的を失って、根無し草か、中が空洞の土偶のようになってしまうという恐れはないでしょうか。私の人生は、貧すれば鈍するようなものなのでしょうか。私は、さまざまな肩書や、それを保つためなど対価を伴う人間関係、というのでなく、何がなくとも残る確かな土台から、離れないでいたいと思わされます。生きるにも、そして死に至るときさえも、わたしを慰め、励まし、勇気づけるもの、とりわけ魂が飢え渴く日にこそ拠り所となる、生き活きとした喜びの泉となるもの、そのようなものとしての「私の生の基礎」とは、何なのか。

皆様はどうお答えになるのでしょうか。一方的になることを恐れつつ、私自身の結論だけもうしあげるなら、私にとっての土台は、ほんとうに、具体的に、「キリストの愛」（ロマ8）以外ではないことに思い至りました。いや、これまでお話ししてきたことと何もかわらない答えではないか、とおっしゃると思います。もうほとんど、昔むかしのハイデルベルク信仰問答による問いと答えの繰り返しではありませんか。たしかにそうです。わたしの答えは、結局、先達たちが語り継いできた古い結論と、何も変わりはないのです。けれども、この「結び」に私が今の文脈にあっても、また今後何があっても、なお結びつけられると確認できたことは、私にとってはとても新鮮で、その意味で「新しい」気づきだったのです。

## 牧会書簡（7）

説教のようなお手紙となり申し訳ありません。今の私には、説教も私信も同じ土台にあるので、こうなっていました。今後、この土台からあらためて、公的な語りとプライベートな語りなど、さまざまな展開、色付けをしていきたいと思いますが、今はあらためて「立ち帰り」の作業をしているところなので、形式的な区別は取り払いました。

私は、生きるにも死ぬにも、かつてパウロが言ったように語り続けたいと思います（古いことばを新鮮に聞くために、教派ではあまり参照しない翻訳聖書の最新訳〔新改訳 2017〕を開いてみます）。

**「だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、危険ですか、剣ですか。／こう書かれています。／『あなたのために、私たちは休みなく殺され、／屠られる羊とみなされています。』しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。／私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、／高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」**  
(ローマ 8 : 35 ~ 39)

「御子のかたち」（同 29 節）に言及する前の文脈から、ぜひ読んでいただければと存じます。私たちは、霊的にも身体的にも主に結ばれて、それゆえに「神の似姿」として生きる、そのふさわしいあり方としての祈りと讃美を始点とし、終点とし、またその間を満たすものとする、ということを確認したうえで、もういちど枝分かれした私の人間臭いさまざまな生のありようの、どの片隅にも「血が巡る」ような、「生気がみなぎる」ような、そんな喜びを感じて「リフレッシュ」したいと思うのです。

さて、このような考えのもと、私は、与えられた「休み」の期間に、この土台の上にすべてのわざを再構成し始めようと試みています。牧師として、大学や神学校の講師として、ひとりの妻の

## 牧会書簡（7）

夫、ふたりの娘の父、肉親の息子、血をわけた弟と妹の兄として、あるいは教会の兄弟姉妹の末弟、社会の一員・有権者、国の「主権者」のひとり、そして神のつくられた世界にあって「生めよ、増えよ、地に満ちて、地を治めよ」と呼ばれた「創造（被造物）の冠」たる人間として、どの立場にあっても、私は「キリストのかたち」であることにはじまり、その愛に常に結ばれて、「神の似姿」たることを目的とする生を求めていきたい、ということです。

具体的には、教会での説教も、大学での授業も、家庭での遊びも、その他どこでも通じる土台の確認作業として、聖書に新しい気持ちで取り組む作業を一から始めようと思います。どの場でも通じる基礎固めの作業をしようと考えたとき、私の場合は、子どもたちと共有できる言葉で聖書を学びなおす、というのがひとつのあり方かな、と思われました。そこで、まだ試みの段階ですが、自分があらゆる生の場面でも土台だと考えていることについて、子どもたちに語るという形式をもった、「こどもとおとなのための聖書のおはなし」をまとめてみようと思いました。たくさん時間があるわけではありませんので、2015年に教会で行った「こどものせつきょう」を土台に、それを書き改め、さらに新しい形式にのせて、つまり動画で発信しようと思いたったわけです。出来はまだまだ、上に述べたような深みで生の土台を表現するには至っていませんが、限られた能力と時間のなかで、私なりに、「神の似姿」について問い直し、「讚美」という帰結に至ったことのひとつの表現として、どうぞみなさんにも観ていただければと思います。教会ホームページの「最新のお知らせ」に、動画のリンクをのせていますので、ご覧ください。

その他、説教も、大学の「キリスト教の基礎」という講義においてさえ、同じ主題にそれぞれの形式でアプローチしていることを、今回の「付録」から垣間見ていただけるかな、と思います。しばらくは忍耐のときが続きます。どうぞ、お体には気を付けて、そして「信仰の薄い者たち」が陥りやすい霊的なひとりよがり注意して、主をあおぎ、祈り歌う日々をお過ごしください。

主にあるきょうだいしまい、そのご家庭に、主の平安と祝福を、心よりお祈りしています。

2020年5月5日 府中中河原教会 牧師 大石周平

小会だより（簡略版）：第5回小会で祈祷会のオンライン再開の検討を開始、審議継続となります。

## 日々の祈り～飢え渴きを満たしたもう主に

教会による「日々の祈り」。今回は後藤俊文長老が「感謝の祈り～飢え渴きを満たしたもう主に」と題して整えてくださいました。合わせて朝ごとに「主の祈り」を祈りましょう。新たなる命の希望をもって御名をほめ讃え、祈りに祈りを重ねましょう。

愛と憐れみに富みたもう主イエス・キリストの父なる神様、御名を讃美いたします。

あなたはあまり溢れる御恵みにより、ここ府中中河原の地に、あなたに仕える群れとして教会をたてることをお許しください、週ごとの礼拝を守る喜びの内においてくださいました。

今、私たちの群れや多くの志を同じくする群れは、共に集まり礼拝することが困難な状況になっております。この事態はもう1か月に及び、さらにもうしばらく先の見えない状況です。

このような中であっても、あなたはよき牧者をお遣わしください、私たちの群れを牧しくださっており、慰めのうちにおいてくださいます。あなたの慈しみと御恵を感謝いたします。

しかし、信仰弱き者にとって、共に礼拝し、聖餐の食卓に着くことがかなわないことは、とても飢え渴きを覚えることです。共に御名を讃美し、祈り、聖餐の豊かな御恵の内にあることを覚えて主の食卓に着くことがかなわないことに、飢え渴いているのです。

あなたがなされることはすべて良きことであり、負えぬほどのくびきを課せられるお方ではないことを教えられていても、飢え渴くのです。信仰を強め、飢え渴きをお癒しください。そして、この時においてこそ顕在化する様々な教会の課題に立ち向かわせてください。この地に開かれた公同の教会として、なすべき課題をお示しください。高齢や病等により、礼拝出席が困難であった兄弟姉妹に寄り添い、癒しをこい願う祈りを共に捧げることを得しめてください。そして、共に礼拝に呼び集められ、み名を賛美し祈りを捧げる日が来ることをこい願います。

5月の第1主日は「日曜学校日」（子どもの祝福を祈る日）でした。あなたの真の知恵をはじめ、共に集って学びをすることができないでいる子供たちが多くいることを覚えます。特に今回の事態によってより困難な状況にある子どもたちが、多くあることを覚えます。どうかあなたの顧みの内にお置きください。

社会を支えるために様々な分野で働かれている方々や、新型コロナウイルスで病の床に臥せている方々のことを覚えます。どうかあなたのお癒しと慰め励ましのうちにお置きください、勇気をお与えください。

あなたに許されてこの地に在る教会として、今・この時、どのように仕え、何をなしてゆくべきか、知恵と力をお与えください、一人ひとりをお用いください。内向きではなく、世にある教会としての責任、普段見過ごしてしまいになりがちな種々の課題を覚えて、具体的に仕える教会としてください。

この願いばかりの貧しき祈り、主イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン